古民家だより

No. 49
令和４年（2022 年）11 月 29 日（火）
越谷市教育委員会　生涯学習課

長い夏の後の短い秋という傾向は当たり前のようになってきた近年です。いわゆる古民家で生活が営まれていた頃を知っている世代の方々には、このことは肌で感じておられるでしょう。11 日、第 64 次南極観測船が出航しました。当地での観測の一つに地球温暖化の状況調査があるそうです。

小学3年生の目で「昔」を見ると・・・

コロナ禍は丸３年を過ぎようとしています。この間、学習指導要領の改訂も相まって、越谷市で管理運営している２つの中村家住宅への社会科見学は激減しました。しかし今年度は８校の小学校の来館があります。（11 月 28 日現在。予定も含む。）これまで大間野町旧中村家住宅に来館したのは**越谷市立北越谷小学校**（10 月 7 日）、**草加市立八幡北小学校**（11 月 15 日）、**越谷市立大間野小学校**（11 月 18 日）、**春日部市立牛島小学校**（11 月 25 日）です。12 月 8 日には**越谷市立新方小学校**の見学が予定されています。また旧東方村中村家住宅には**越谷市立　花田小学校**（10 月 14 日）、同 **弥栄小学校**（11 月 10 日）、**同　蒲生南小学校**（11 月 21 日）の来館がありました。小学２年生では「町探検」、３年生では「昔のくらし」の学習で来館しています。

“昔”って、どのくらいの過去？？

小学３年生は時間の経過をどのように感じているのだろう。時代の感覚はどの程度なのか・・・小学生が来館して整列・挨拶の時や案内をしている間、担当職員はこんなことを探りながら話をしています。この年代の子どもたちからすると親世代くらいまでは“今の人”で、祖父母世代は今と昔の境目くらいでしょうか。歴史学習は６年生からですので、「江戸時代」という時代名称を知っている３年生は多くはないようです。あるいは「100 年前」とか「400 年前」という言い方も私たちは低中学年児童の前で使いますが、その２つの違いはなかなかつかみにくいかもしれません。時間がある時には１㎝を１年の長さにした“時間ものさし”を使うこともありますが、せいぜい 300 年くらい前までのことです。

それならばということで、**「昔＝電気や鉄道、自動車がなかった時代」**という共通認識を確認して説明や体験活動をしてみました。これまでの社会科見学でのやりとりの一部をご紹介します。

昔の照明具・運搬具・脱穀具・土器

灯明（とうみょう）、和蝋燭（わろうそく）、行灯（あんどん）、石油ランプを点けていくと、電気が通っていなかった時代の照明は火を用いたものであることに児童たちは気づいていきます。火を照明に用いていたのは数十万年もの間のことでした。用具や燃料のほとんどはわが国では植物由来です。中学生くらいになったら、そういうことにも認識が伸びていくことだろうと思います。

天秤棒（てんびんぼう）体験では空の笊（ざる）や桶（おけ）を用いますが、特に桶は３年生には重くて苦心しているようです。大八車の体験では**「米以外にどんなものを運んだのですか？」**などの質問が出たりしました。（以上の事は「古民家だより」No. 39 をご参照下さい）

千歯こきを使った脱穀（だっこく）（稲こき）体験では、普段食べている米が稲という状態から白米になるまでの過程の一端を実感するようです。

旧東方村中村家住宅には市域の考古学資料が展示されていて、今も発掘調査が行われている遺跡から出土した物を整理しています。そこで、雨天時に旧東方村中村家住宅で社会科見学を行う際に「土器に触れる体験」を入れています。土師器（はじき）や須恵器（すえき）に実際にさわって、その感触を味わってもらっています。よく観察すると内側が煤（すす）で黒くなっているものや、糸切り痕（こん）があるもの、ヘラで擦（こす）った跡があるものなどに気づきます。（「古民家だより」No. 44 ご参照）

電気がまだ通っていなかった時代に、豊富な種類の植物を材料として人の手を中心とした作業で作って生活を営んでいたことを、この先の世の中を作っていく子どもたちには是非見ておいて欲しいと思っています。

土間の床は何でできている？

古民家では現代住宅の違いを一番理解してもらえそうな部屋が土間です。大戸口から入ります。

職員：この家には出入口が４つもあるんだよ。

児童：そうなの！　　オレんちは2つ。
職員：さあ、皆さん入りましたね。今、そこの所を跨(また)いで入った人、偉かったね。その敷居は踏んではいけない所なんです。さてこの部屋は「土間」と言います。皆さんの足元、土間の床は何でできていると思う？
児童：石！　　児童：コンクリート。　児童：木じゃないなぁ。
職員：もう一度聞くよ、土間の床は何でできていますか？
児童：（足でトントンしながら）石‥‥じゃないの？　あ、もしかして土？
職員：そうなんです！だから“土間”なの。粘土とニガリと石灰を混ぜて捏(こ)ねて捏ねて、叩(たた)いて叩いて叩いて作った床です。
児童：ニガリも？！　児童：ニガリ、知ってる。お豆腐に入ってる。

木材同士はどうやってくっつけている？

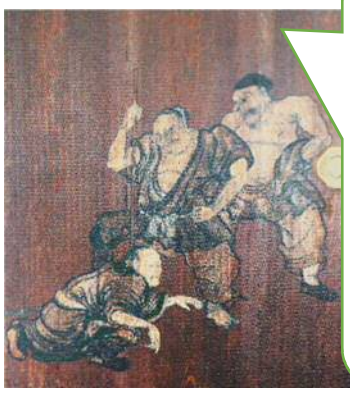
土間で見上げると黒々として太く曲がった木材が何本もの梁(はり)が迫ってくるように見えます。
職員：では上を見て下さい。どうですか？
児童：あ、木だ！　　児童：ウン、木だ。　　児童：落ちてこないの？
職員：あんな太い木材をどうやって繋(つな)いだり固定していると思いますか？
児童：釘。ボンド。（ある学校の児童の中に「木組み」と答えた人がいました。スゴイです。）
職員：釘や接着剤では駄目(だめ)なんです。繋ぐ箇所に溝やでっぱりを作って組み合わせているのです。ところで、これらの木材の色や艶(つや)を見て下さい・・・というように進めていきました。

留学生との学び合い

文教大学の外国人留学生４人が旧東方村中村家住宅を訪れました。中国から３人の女性、ブラジルから１人の男性です。４人共に達者な日本語を話しましたが、日本文化に対する関心と造詣が深いことに驚きました。女性たちは宝塚歌劇や富士山に興味があるようで、茶道については「日本の礼儀文化を表現している」と応えてくれました。男性は日本の料理法や音楽に関心があるようでした。アンケートには、当館の感想を次のように記してくれました。

何故、その絵が・・・？　【中国出身の女性】

- 200 年前の材料でこんなに丈夫な家を作り今まで維持することができて、すごいと思わせてくれます。
- 昔の人の知恵に感心しました。窓の外に窓を守るもの（縁側、雨戸）を作ることが考えられています。
- 中村家住宅の中を見学していると、一瞬歴史のにおいを感じさせてくれました。
- トイレが現代のものと変わらないことに、少し驚かされました。
- 韓信(かんしん)の画を見ましたが、最初はこれ一体何のため家に飾られているかと・・・その後私はようやく知ったのです。江戸時代に中村家の状況はいつもうまくいくわけではなかったです。家と土地が失くなった後、中村家の息子は江戸で一生懸命に働きました。幸いに自分の家を取り戻しました。これこそ、家に韓信の画を飾る理由なんですね。



「韓信の股くぐり」（当館の板戸画）
紀元前三世紀末～紀元前二世紀初めの中国の武将。若い頃に侮りを受けた時に、将来のために耐えしのんだという故事。

柿のコーティング！？

柱の根元は雨で腐食しやすいので、柿渋を塗っています。

【ブラジル出身の男性】
建築様式を通して多くの日本文化について学ばせてもらったことは、とても素晴らしい経験でした。今回の訪問で私が学んだ最も興味深かったことは、食材を床下収納するという方法と、木材をコーティングして保護するのに柿がどのように用いられたかということです。（柿渋のこと）
（※上記は、留学生のアンケートを一部抜粋、要約、また、英語の文章は日本語に訳したものです。）
30 分ほどの滞在でしたが、留学生たちが主体的に学ぼうとする姿勢に感心しました。今、世界はこれまでにないくらいに難しい状況にあります。そのような中、外国の人々と互いに交流交歓しあい、理解を深め合うことは非常に重要であり必要なことと思われます。越谷でのこのような取り組み、学び合いは、そういうことにも繋がっています。今後も続けていきたいものです。